

教えてください、あなたのこと ㉔

東京都練馬区 勝田 映子さん

(帝京大学教育学部 初等教育学科 准教授)



- Q** 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。
- A** 今年で還暦です！ 年取るのはイヤですが、米国の文筆家メイ・サートンはこう書いています。「私から年齢を奪わないでください。働いて、ようやく手に入れたのですから」。かっこいい！ 実感できますよね。私もこんなふうに誇らしく年を重ねて行きたいものだと思っています。出身地は、東京の東久留米市。武蔵野の雑木林で遊び暮らして育ちました。
- Q** ごみ問題に関心を持つようになったのは…？
- A** 小学校の家庭科教師をしていたときにごみ問題について調べ、その深刻さに愕然としたことがきっかけです。また、子ども時代、家族と毎週のように奥多摩で山登りをしていた私にとって、日の出町の最終処分場問題は看過できない問題でもありました。
- Q** 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけを教えてください。
- A** 通産省の容器包装リサイクル法改正に関する会議の参考人として「小中学校における環境教育」について話させていただいた折りに、ごみかんの会員さんに薦められました。
- Q** ごみ問題に関すること以外に、趣味や生きがいは何ですか？
- A** 趣味は音楽と映画の鑑賞です。クラシック音楽が好きで、自分でもピアノとサクソフォーンを練習しています。猫好き。かわいいもの好き。美術鑑賞も好きで、木喰仏とルオーが好きです。最近、野菜の栽培に目覚め、「胡瓜のカーテン」を栽培中です。
- Q** 特筆すべき近況があれば、教えてください。
- A** (社) 産業環境管理協会の「小学生のための環境・リサイクル学習ホームページ」(<http://www.cjc.or.jp/j-school/>) のネタを考案する仕事をしています。先日、ごみっと106号に寄稿されていたウイトワース真弓さんに「サンフランシスコのごみ・リサイクル事情」を書いていただきました。他にも現地にお住まいの方ならではの「目から鱗」の情報も満載です。ご覧いただけましたら、とてもうれしく存じます。またこの春はドイツを訪れ、ごみ、リサイクル関係の写真を撮ってきました。日程の都合で、本誌「ドイツ便り」でご活躍されている田口理穂さんにお会いできなかったことが大変残念でした。来年もドイツに行く計画があり、今度こそハノーファーで理穂さんにお目にかかれることを願っております。
- Q** ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。
- A** 内容が濃くて勉強になる上に、イラストがかわいらしくて親しみが持てる「ごみっと・SUN」。毎回楽しみに拝読しています。これからも長くおつきあいを！ 他にごみかんに期待したいのは、生ごみの発生抑制に関する勉強会の開催です。食品ロスをなくすためには、買い物や冷蔵庫の使い方から見直していかなくてはならないのでは、と思っています。また、若い世代が活躍できる活動が広がるといいなと思っています。